

令和6年度システム改善・資源開発検討会議（縦レビュー会議）の報告について

目的： 各機関での虐待対応を通じた課題や取組の抽出から共通項を整理した上で、具体的な対応策を検討し、次年度の実践につなげること。

- (1) 開催日時：令和7年1月14日（火）午後1時～午後4時
- (2) 場 所：市役所分庁舎2階 大会議室
- (3) 参 加 者：

高齢介護課、障がい福祉課、地域福祉課、東山手高齢者生活支援センター、西山手高齢者生活支援センター、精道高齢者生活支援センター、打出浜高齢者生活支援センター、潮見高齢者生活支援センター、障がい者基幹相談支援センター、権利擁護支援センター、芦屋市社会福祉協議会

- (4) 令和6年度取り組む課題

切れ目ない支援が提供される体制が必要である（こども・障がい・高齢、転入等）

- (5) グループワークにて出された意見

A	・他機関との連携と情報発信・共有が必要。顔の見える関係づくり、役割を知っておくことが切れ目ない支援につながるため、「各機関がお互いを知るためのシステムづくり（研修、プラットフォームづくりなど）が必要。 ・「虐待なし」で認定された場合でも必要に応じて、横レビュー会議でその後の状況を共有するようにする。
B	・トラブルが発生し、困難事例化してからの動きでは、更に支援負担が増加するため、予防段階の「かもしれない」段階で共有出来るようになればよい。 ・他機関の支援内容やサービスを理解していないことや、今後の課題予測がついておらず、支援の必要性に気づいていないこともある。多機関の支援内容を知ることで、早い段階での情報共有が出来るようになる。
C	・自身の立場を理解し、他者の立場を理解するという人材育成の場が必要である。 ・事例を蓄積し、検索するとAIが対応方法を教えてくれるような一元的なサービスがあれば、各々先々のリスクが認識でき、切れ目ない支援になるのではないか。
D	・他機関の窓口の役割を共有し、どこにどのような相談が出来るかを認識しておく。 ・関係性構築を主眼に置いた研修を開催することで、困難化する前に相談できる流れになるのではないか。

- (6) 令和7年度の実践についての検討

各チームから出た意見を縦レビュー会議後の事務局会議で検討。

今後、意見を集約し、各取組案について、各関係機関の会議で意見をもらい、協議していく。

